令和５年度　浜松市立浜名中学校　学校評価報告書

１　自己評価

令和５年１２月に、生徒、保護者、職員を対象にアンケートを取り、教育課程編成会議を開催して教育活動について、（１）徳、（２）知、（３）体の分野に分け、自己評価を行った。自己評価結果の結果は以下の通りである。

（１）徳

学校全体として、生徒たちの規範意識が高く、自他の命を大切にし、いじめはいけないという意識が高い。今年度は学校行事や部活動、生徒会活動で主体的に取り組む生徒の姿が多く見られた。一方、生徒の交通マナーや挨拶について、生徒や保護者はできていると考えているが、教員はまだできていないと考えている。学校として生徒や保護者の意識を変え、具体的に向上するような方策を講じる必要がある。

（２）知

授業に真剣に取り組んでいる生徒が多い。特に今年度は生徒の ICT 機器(タブレット端末)の活用率や、活用方法の質的な向上が大幅に見られた。今後、生徒の多様な実態に応じて、より「個別最適な学び」を実現させるために、ICT 機器の効果的な活用方法の模索や、情報モラルの指導を積極的に推進していく必要がある。

（３）体

規則正しい生活を送っている生徒が多く、学習や部活動に意欲的に取り組んでいる生徒が多い。また、教師への信頼度も高い。一方、生徒自身や教師も「(生徒が)自分で決めたことを、最後まで取り組む」姿がやや欠けていると考えており、今後、学校行事や部活動を中心とした教育活動全体を通して、意志が強くねばり強い生徒の育成を目指していく必要がある。

（４）その他

学校からのたよりやブログ、メール等での情報発信について、保護者からの評価が昨年度よりも高まっている。次年度も引き続き、生徒の生き生きとした活動の様子を積極的に発信していく。

２　学校関係者評価

令和６年２月９日（金）に開催した学校運営協議会において、自己評価結果、考察及び改善方策について委員に報告。委員からは以下のような意見があった。

（１）徳

・何度かの参観を通して、とても落ち着いた教育活動が展開されていると感じた。生徒の自己肯定感が高く、よい表れである。

・１年を通して、生徒たちが積極的に地域の行事のボランティア活動に参加し、「地域に元気を運ぶ浜中生」という姿が多く見られた。また、地域住民も中学生の活力に元気をもらっていたように感じる。このような学校と地域が一体となった取組が双方を活性化させ、大きな成果を感じた。

・校区内でのいじめの状況について情報交換をしていると聞いている。そのような小中で密な情報交換を定期的に行うことが、学区内のいじめを解消していくことにつながるので、継続してほしい。

（２）知

・生徒たちは、目標をもって授業や部活動に一生懸命取り組むことができている。

・学校の学習や活動に関心をもって臨んでいる生徒が多いと感じる。

（３）体

・校内を参観した際、教師たちの生徒への声の掛け方、生徒から話し掛けられた時の反応など、真摯に子どもと向き合う姿が見られた。今後も継続していってほしい。

・交通マナーや生活習慣に関しては、子供だけなく、保護者の意識を変えていくことも視野に入れて働き掛けていくことが大切である。生徒たちが将来の夢を実現していくことができるよう、地域（学校運営協議会）も継続して支援していきたい。

３　学校関係者評価を受けて

学校関係者評価に基づき、以下の改善方策を立てた。

（１）徳

生徒を主体とした学校行事や生徒会活動を充実させることで、さらに活気のある学校づくりに取り組んでいく。今年度、生徒会を中心に校則の改定に取り組んだことで、生徒の自主性が育ってきたことが成果として挙げられる。次年度も身の回りの課題について自分たちで考えていくような投げ掛けをしていきたい。また、教師・生徒ともに「ほめ上手な浜名中」を合言葉に設定し互いを思いやる心を育んでいくことが、生徒たちの自己肯定感をさらに高め、いじめ防止につながると考える。

（２）知

次年度も、キャリア教育と ICT を効果的に活用した教育の情報化（GIGA スクールの推進）を柱に、教育活動に取り組んでいく。キャリア教育では、本校が策定した「かかわる」「みつめる」「ふかめる」「みとおす」の４つのキーワードをどの授業でも生徒に提示し、学校の学びが将来に結び付いていることを意識化させる。特に次年度は、生徒から公募したキャリア教育の理念を具現化したイメージキャラクターを授業やワークシートなどに活用し、理解の浸透を図る。

ＩＣＴの推進では、今年度、校内まなびの教室や家庭でのリモート授業を行い、「個別最適な学び」の実現に向けて実践の蓄積ができた。次年度は、タブレット端末を家庭に持ち帰る頻度を上げ、生徒たちが日常的に使用する環境を整えていく。

（３）体

生徒たちは授業や部活動に目的意識を持って熱心に取り組んでおり、今後も継続して指導していく。特に、それぞれの活動の目標を明確に示し、指導の場に必ず教師がいることで親身な指導を行う。

生徒たちが規則正しい生活を送るように継続して指導するとともに、学校便りや生徒指導便りを通して保護者の意識を高められるよう、啓発していく。